

日付：2023年7月17日

2022年度「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」事業に関する外部評価報告書

氏名： Saniye Gulser Corat

別紙の「2022年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）事業結果報告書」に基づき、2022年度事業結果に対する外部評価結果を報告します。

1) 女性研究者採用比率 30%以上達成

意見：残念ながら、2022年の採用比率は目標を大きく下回る19.2%でした。しかし、トップレベルでこの問題に関する議論が進められており、神戸大学ジェンダー平等推進部門長がその議論に直接関与していることに期待が持てます。現時点で重要なことは、情報発信のルール設定など、議論を経て策定されたすべての計画をこれ以上遅れることなく行動に移し、迅速な対応と情報共有の透明化実現に努めることです。指摘事項の実施の進捗状況に関する報告書によると、対応が完了している指摘事項は1件のみであり、それ以外はすべて進行中です。2023年内の完了予定日（または予定月）を示すなど、進捗具合に言及するとよいかもしれません。

さらに外部評価委員として申し上げますと、検討中の「より積極的な向上策」および言及されている「制度化できた対策」に関する詳細情報を希望します。報告書は簡潔であるべきと理解していますが、具体的な詳細が欠けていれば、制約や機会を完全に把握することは困難です。

2) 上位職への女性登用比率（昇任比率）の向上

意見：この目標についても、設定目標20%の半分にも満たない9.62%という残念な結果となっています。共同研究に関する研修プログラムや予定されている支援策など、各種イニシアティブが用意されていることは賞賛に値します。しかし、分析や調査が保留中であり、イニシアティブが本質的な原因に対処していない可能性があります。研修プログラムに関する女性研究者の目標人数が少なすぎるという点も指摘させていただきます。こうしたプログラムの対象となる女性職員については、実際の人数とニーズを反映すべきです。女性職員何人中の1人または2人が昇任候補なのでしょうか。このイニシアティブから支援を受けることに関心を示しているのはどのような職員でしょうか。設定目標と、その目標達成のために導入されたプログラムの上限には大きな食い違いがあるようです。より現実的な目標設定を考えてもよいのではないのでしょうか。

2022 年度の報告書によると、上級管理職に就いている女性研究者は 4 名であり、2023 年度の目標をすでに達成しています。満足のいく結果ですが、昨年 の 5 名から 4 名に減少した理由をうかがいたいと思います。

### 3) 次世代を担う若手研究者の裾野拡大

意見：この目標の下でこれまで実施されたイニシアティブを全面的に支持するとともに、この目標に関するすべての指摘事項（3-1 から 3-4 まで）を遅滞なく実施するよう強く推奨します。世界的に、建設的なメンタリングとロールモデリングは、若手研究者のキャリア形成支援方法として極めて有効であると証明されています。正規機関において、面倒見の良い前向きな男性メンターが女性研究者のメンタリングを行うことは、特に効果的です。代替案として、ジェンダー平等推進部門が、一部の女性研究者にこうした支援を提供する意欲のある適切な男性メンターを、大学内と民間パートナーから指定してもよいでしょう。

### 4) ダイバーシティ環境の充実と学外への波及

意見：ダイバーシティ環境の充実と学外への波及のために 2022 年度に行われたすべてのイニシアティブについて、神戸大学に敬意を表します。2023 年度中も引き続き、考え抜かれた綿密な話し合いを定期的に持つことでパートナー企業との取り組みを続け、前向きなメッセージと成功談を通じて、確実にパートナー企業のコミットメントを継続させることを提言します。協力に対する特別な賞や認定など、なんらかの形でパートナー企業を表彰してもよいでしょう。

### 5) 本事業に関する課題（「2020～2021 年度外部評価指摘事項に対する対応策の進捗状況および結果報告」へのご意見もこちらにご記入ください。）

意見：本事業は、神戸大学だけでなく、事業パートナーに関わる幅広い関係者に影響を及ぼす旗艦イニシアティブです。神戸大学に対して、2023 年もこのイニシアティブへの支援を継続するよう推奨します。この種の事業が定着し制度化されるまでには、長い時間がかかります。本事業は女性の職員や研究者の増加だけでなく、行動の変化を促すことで、既存の古いシステムや構造を変えていくことを目指しています。システムや構造を変え、インクルーシブとジェンダー平等を反映していくプロセスは長い時間を要し、政治的意思、決意、強靭性、忍耐、経済的支援を含む長期的サポートが不可欠です。

2023 年度の一層の成功を祈っております。